

普及センターだより

## くりはら

## 宮城県栗原農業改良普及センター

## 第129号



みやぎの普及

普及活動標語

思いを形にあなたのチャレンジを支えます。  
応援します。農業普及

〒987-2251 栗原市築館藤木5-1

TEL 0228-22-9404 (地域農業班)

0228-22-9437 (先進技術班)

FAX 0228-22-6144, 5795

E-mail khnokai@pref.miyagi.jp

URL: http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/nh-khsgsin-n/



平成26年12月農事組合法人i（アイ）ファーム設立

## 巻頭言「農地中間管理事業」を地域農業活性化に活かそう！

明けましておめでとうございます。平成27年も引き続き、栗原農業改良普及センターの業務推進にご理解とご協力をお願いいたします。

国は平成26年度を所得倍増に向けた農政改革元年と位置づけ、農地中間管理事業をはじめとする4つの改革をスタートさせましたが、農家の皆さんは米価の大幅下落で複雑な思いで新春をお迎えのこととお察し申し上げます。普及センターでは「米価下落に伴う営農相談窓口」を設置しておりますので、どんなことでもご相談いただければと思います。

今年の栗原市の米の生産数量目標は前年比3.8%減の47,733t、さらに深掘りした自主的取組参考値として5.3%減の46,969tが示され、これまで以上の減反が求められることとなりました。大豆の増産も考えられますが、畑作不適田では、有利な交付金単価が設定されている飼料用米の生産も検討していただきたいと考えています。

国は農業の構造改革を推進するため、今後10年の間に担い手の農地利用が8割（宮城県では9割を目標）を占める農業構造に変革し、集約化とコスト削減により、強い農業を実現することを目的に掲げています。

宮城県では、みやぎ農業振興公社が農地中間管理機構に指定され、農地を出し手から借り入れ、受け手に貸し付ける役割を担い、昨年4月から事業を開始しました。今

現在栗原市では、借り手として225件、1,842ha、出し手として79件、118haの申し込みがあります。

農地中間管理事業では、機構へ預けた農地の面積割合に応じて、本年度は、①地域集積協力金（一例：2割超え5割以下では2万円/10a）が、また、機構に農地を預け、経営をリタイヤする場合には②経営転換協力金（一例：2ha超えで70万円/戸）が、さらには、機構の借受農地等に隣接する農地を機構に貸し付けた場合には③耕作者集積協力金（2万円/10a）が交付されます。いずれの交付金も来年度までの特別単価となっていて、集積年次が早いほど有利になる制度設計となっています。

栗原市の60歳以上の基幹的農業従事者の割合は76.3%（2010農業センサス・県平均71.7%）となっていて担い手の確保が喫緊の課題です。できれば、集落毎に10年先の地域農業をどう描いていくのかや、担い手をどう確保していくのかについて、じっくりと話し合っていたいただきたいと思います。

集落営農組織を法人化して受け手としたり、集落内の受け手申請者の方々に集積するなどすれば、3つの機構協力金を利用できます。地域づくりに農地中間管理事業をうまく活用してみたいかでしょうか。普及センターはしっかりと応援してまいります。

栗原農業改良普及センター所長 鹿野 裕志

復興へがんばろう！ 宮城

## 技術情報

# 管内の施設野菜ほ場における 土壌分析値について

平成25年度の施設野菜ほ場における土壌の分析値平均は表1のとおりでした。施設は露地に比べ土壌養分の集積が目立ちます。石灰の平均は508kg/10aでしたが、1,000kg/10aを超えるものも見られました。特に、リン酸は、9割が作付け前の上限値100kg/10a（※）を上回っていました（図1）。リン酸は、窒素のように草勢への影響が現れにくいため、土壌に残肥として十分あっても見過ごされがちです。多くは複合肥料（リン酸成分を含む）、あるいはリン酸成分の高い堆肥（鶏ふん堆肥はリン酸が窒素の3倍ほど）等の慣行施用が繰り返されたことが原因です。このほか、作付け終了時（元肥施用前）、ECは0.2～0.5、窒素（硝酸態窒素）は5kg/10a以下を目標にしていますが、管内ではそれぞれ6割以上が目標より高くなっています（図2、図3）。pHは7.1以上が2割、5.5以下が約1割ありました（図4）

これまで、窒素過剰によるほうれんそうの発芽・生育障害等事例がいくつかありました。窒素濃度が高すぎるためECが高くなり、濃度障害が発生したものです。硝酸態窒素が多くなるとpHが低くなるため、「石灰を施用し元肥の窒素もいつもどおり」を繰り返すうちにpHは適正でもECでの扱いが高く石灰も集積してきます。また、硫酸、硫酸カリ、硫酸石灰（硫酸カルシウム）などの硫酸を含む肥料を連用したことでpHが低くなりECが高くなることがあります。施設では、硫酸を含む肥料の施用は控えましょう。

塩類集積の事前対策には適正施肥が重要です。このため、年に1回は土壌診断を受け土壌の健康状態をチェックしましょう。なお、土壌診断を初めて希望される方については、普及センターまで御連絡下さい。

※ kg/10aは、分析結果の単位mg/100gを読み替えたものです。

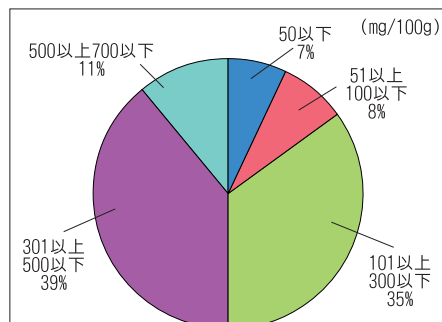


図1 施設野菜土壌リン酸分析結果

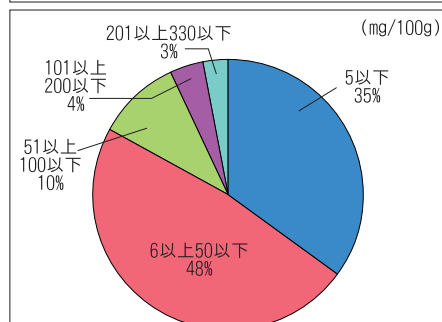


図2 施設野菜硝酸体窒素分析結果

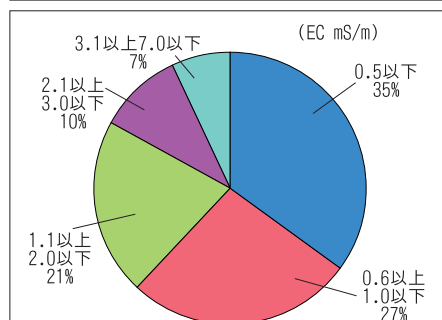


図3 施設野菜EC分析結果

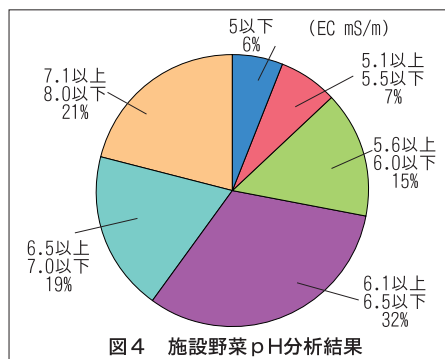


図4 施設野菜pH分析結果

表1 平成25年度 野菜土壌分析結果

項目	pH	EC	mg/100g					備考
			硝酸態窒素	リン酸	石灰	苦土	加里	
平均値(施設)	6.4	1.2	32	288	508	109	160	193点(16品目)
平均値(露地)	6.3	0.3	8	177	287	69	127	74点(14品目)

## (畜産) 今回は冬場の子牛の管理について

牛房の環境として以下の5点に注意して下さい。

- ①換気が充分できていて、牛房全体が乾燥しているか？
- ②子牛が暖かく寝る場所が確保されているか？
- ③餌場と寝る場所がはっきりと分離されているか？
- ④新鮮な水が確保されているか？
- ⑤栗原地域は寒いので、マットヒーターによる保温も効果的です。

寝る場所を確保すると子牛は好んで乾いている場所で寝起きします。このような子牛の好む空間を確保するように努めて下さい。また換気と保温という相反する面での注意も必要となります。



農薬は使用方法をラベルでよく確認し、正しく使いましょう!

## 特集

# 「平成26年産の稲作を振り返る」

### 作況指数：105

10a当たり収量：県北部567kg  
(12月5日東北農政局公表)

栗原管内の1等米比率：97%  
宮城県平均1等米比率：93%

### 栗原管内の作柄のポイント

- ①5月から7月までの高温多照 → 初期生育旺盛 → 茎数・穂数多
  - ②6月末～減分期頃までの葉色低下 → 稲体の栄養状態不良 → 一穂粒数減
  - ③出穂後20日間の日照不足 → 登熟不良、白未熟粒の発生
  - ④登熟中後期の多照 → 登熟の促進、千粒重の維持 → 収量並～やや良
- その他 代かき後高温多照により地温が上昇 → イヌホタルイの多発

## 1. 気象と生育の概況

栗原管内の田植盛期は平年より1日遅い5月16日となりました。田植後は高温多照となり、地温が高く推移したため、活着が早まりました。6月も気温が高い状態が続き、初期生育が旺盛となりました。

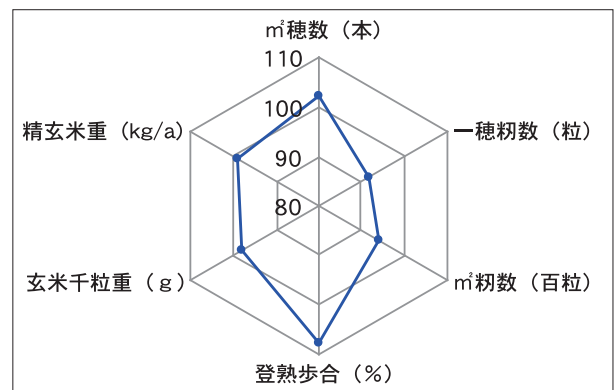
出穂前25日間も高温多照で推移し、全般的に生育が早まり、出穂期は平年より3日早い8月3日となりました。

出穂後20日間は記録的に日照時間が少なくなりました。8月下旬から9月上旬にかけては曇りや雨の日が多く、気温も平年より低かった影響で、登熟は緩やかに進みましたが、9月中下旬は多照となり、登熟が促進されました。

管内の刈取盛期は、平年より3日早い9月28日となりました。

## 2. 生育調査ほ(ひとめぼれ)の収量構成要素と主な要因

- m<sup>2</sup>当穂数：平年比102% → 生育初中期の高温多照
- 一穂粒数：平年比92% → 6月末以降の葉色低下
- m<sup>2</sup>当粒数：平年比94% → m<sup>2</sup>当穂数・粒数少
- 登熟歩合：平年比108% → 粒数少・登熟中後期の多照と日較差大  
(登熟促進・稲体消耗少)
- 玄米千粒重：平年比98% → 出穂後の少照
- 精玄米重：平年比99%



## 3. 本年の課題と次年度の対策

### 1) 窒素栄養の維持

ひとめぼれの場合、m<sup>2</sup>当たり総粒数が28,000粒以上30,000粒未満で安定した収量・品質が得られることが分かっています(本年の栗原管内生育調査ほひとめぼれ平均28,200粒)。本年は高温多照で推移したため生育初期から窒素吸収量が多くなりました。収量が低かったほ場では、6月末に肥料切れとなり、幼穂形成期以降の窒素吸収量が少なく、粒数の維持・確保ができなかったと考えられます。

ほ場の地力を加味し、必要以上に窒素を控え、葉色を極端に低下させない肥培管理を行いましょ。

### 2) 病虫害防除

#### ①斑点米カメムシ類

本年は出穂期が早まったことから、本田への成虫の侵入時期は平年より早まりました。また、主な加害種であるアカスジカスミカメが好む雑草(イヌホタルイ、ノビエ)の残草が多く見られました。

イヌホタルイ発生水田の場合、1回目の薬剤散布時期を出穂始～穂揃期に早めましょ。

#### ②いもち病

管内では、6月第2半月以降葉いもちの感染好適日が周期的に出現しました。一部地域ですり込み症状が見られ、穂いもちまで移行が見られました。山間部や直播のひとめぼれ、萌えみのりに多く見られました。

#### ③紋枯病

県内全般的に発生量が多く、管内でも平年より発生量が多くなりました。8月に曇りや雨の日が多く、病勢の進展に好適な条件だったことが要因と考えられます。

#### ④稲こうじ病

つや姫や生育の遅かった稲で発生が多く見られました。穂ばらみ期の8月上旬に降水量が多かった影響が考えられます。今年病害が発生したほ場では、来年度必ず予防防除を行いましょ！

### 3) イヌホタルイ対策

本年は5月が高温多照となり、代かき後地温が高く推移したため、ノビエよりもイヌホタルイの葉齢進展が早い傾向となりました。そのため、ノビエの葉齢に合わせて一発剤を処理するとやや処理時期が遅かった可能性が考えられます。また、残草が多かったほ場では、SU抵抗性であった可能性も考えられます。

イヌホタルイに対して効果が高い成分には、フロモスチド、クロメスロックス、ベンゾピシクロン、シメトリン、MCPB等があるので、今年残草が多かったほ場では次年度これらの成分の使用をお奨めします。

また、「ノビエ2.5葉期」や「ノビエ3葉期」まで処理できる従来のプロモブチド含有一発処理型除草剤は、「ホタルイに対しては2葉期まで」の適用となります。安定した除草効果を得るためには、イヌホタルイ2葉期以前での処理が可能な「ノビエ2葉期」までに散布するとよいでしょう。



トピックス

受賞おめでとうございます!

みやぎまるごとフェスティバル2014

平成26年10月18・19日に開催された農林水産物・花き品評会において次の方々を受賞されました。

## 宮城県農林産物品評会受賞者

品名	受賞者氏名(敬称略)	受賞名	地区
きゅうり	佐藤 豊	農林水産大臣賞	栗 駒
ねぎ	片倉 栄治	農林水産省生産局長賞	瀬 峰
ごぼう	長谷川 つか子	宮城県知事賞2等	築 館
トマト	有限会社 サンアグリしわひめ	宮城県知事賞3等	志波姫
水稻(うるち米)	有限会社 耕佑	宮城県知事賞3等	一 迫
りんご	佐藤 光夫	宮城県知事賞3等	高清水

## 宮城県花き品評会受賞者

品名	受賞者氏名(敬称略)	受賞名	地区
シクラメン	千 田 繁	金賞	金成
輪ぎく	白 鳥 幸彦	銀賞	一迫
ビオラ	千 田 繁	銀賞	金成



農林水産大臣賞を受賞した佐藤氏

## 平成26年度農業・農村活性化女性グループ等表彰

農村らしいゆとりある生活ができる環境整備や男女共同参画推進に積極的に取り組むなど、農業・農村の活性化を実践している女性農業者の個人やグループを県が表彰する標記表彰事業において、志波姫地区の千葉和恵氏が地域社会参画部門で最優秀賞を受賞されました。

千葉和恵氏は栗原市生活研究グループ連絡協議会

の会長を平成18年まで務められた後、平成18年にJA栗っこの理事に女性として初めて就任しました。平成23年には栗原市農業委員会の農業委員に就任し、栗原地域における女性農業者の社会参画を先導してこられました。仲間の女性農業者と一緒に次世代のリーダー的女性農業者の育成にも取り組んでおり、これらの活動実績が高く評価されました。

新規就農者の計画認定制度が新しくなりました  
(認定新規就農者制度)

平成26年10月1日から新規就農者の計画認定制度が新しくなりました。新たな制度では、農業経営基盤強化促進法に基づき、原則18歳以上45歳未満の新規就農者や新規就農者が役員の大半数を占める法人が「青年等就農計画」を作成して市町村へ提出し、市町村から「青年等就農計画」の認定を受けることとなります。

この認定を受けると、認定新規就農者となり青年就農給付金、青年等就農資金、収入減少影響緩和対策(通称「ナラシ対策」)など、新規就農者向けの各種支援施策の対象者となれます。普及センターでは新規就農の支援制度の説明や青年等就農計画の作成助言などを行っております。御興味をお持ちの方はぜひ御相談ください。

農業散布作業中、作業中の事故に注意しましょう